

波洗う高浜と古代のハイテク

今から2万年前、地球は最後の氷河期を迎えていました。このとき海面は約150mも低下し、現在豊かな漁場を作っている大陸棚と呼ばれる緩やかな海底地形が作られました。恋瀬川や桜川は低い海面めざして深い谷を作ります。それまで土浦入りを流れていた鬼怒川は、このころ現在の鬼怒川筋の流れを変えました。

縄文時代になると次第に温暖な気候となり、海面が上昇してきました。谷には奥まで海が入り込みます。6500年前に最も広がった縄文の海では、縄文の人たちの豊かな暮らしを伝える



▲山王川沿いの水田の下の地層から見つかった貝化石。上からマガキ、ヘナタリ、ハイガイ。泥干潟の環境が推定され、ハイガイは温暖な海を好む。

る貝塚が沿岸の各地に作られました。市内でも井関、東田中、染谷に貝塚が残っています。大量の土砂をもたらす鬼怒川の川筋から外れたため、入江は海面として残り続けます。

縄文の海は奈良・平安時代になってもありました。奈良時代初めに記された「常陸国風土記」には流海として記録され、高浜の海は四季折々風光明媚で人々が集い楽しみ、夏には浜で涼む様子が記されています。国府にも近く、名所となっていたようです。

「縄文の海」を埋めて発達した低地には今では美田が拓かれています。しかし、深い谷地形を埋めた軟弱な地層は不安定な地盤となっています。また海の波が台地を削った急な崖にも災害への注意が必要です。

奈良時代に、国府の置かれた石岡には、役所や寺、国府直営の工房（鹿の子遺跡）が建設されました。そのとき必要とされる瓦や鉄の生産は朝鮮半島から



矢野徳也
 (自然公園指導員)
 自然環境の調査や、学校などでの環境教育を積極的に活動している。

伝えられた当時最新の高度な技術でした。瓦谷の瓦塚窯跡では、大規模な瓦窯の跡が確認されています。瓦を作るためには、技術だけでなく原料の粘土はもちろん、窯を築く土と、適した斜面、風の通る地形や大量の薪を供給する森が必要です。まさに「地の利」を上手に使っています。同じ頃、市内では硬く焼き締めた器（須恵器）や鉄作りも行われました。これも粘土や砂鉄という地層の恵みと森の恵みです。



▲瓦塚窯跡（瓦谷地区・県指定史跡）
 千年以上前の登り窯が内部もそのままに今でも残る。近年の発掘調査では確認された窯が34基となり、全国最大級と言われている。

次回は地球の今と未来を訪ねます。

参加費無料！60人限定！
 ※市内在住、在勤している人が対象です。

日時 3月8日（日）
 午前8時40分（八郷総合支所出発）
 9時10分（イベント広場出発）

コース 上高津貝塚ふるさと歴史の広場→陸平貝塚公園（文化財センター）→予科練平和記念館「雄翔館」
 ※歩きやすい服装でご参加ください。昼食はご持参ください。コースは都合により変更になる場合があります。



貝塚をテーマに史跡探訪
 市民史跡めぐり参加者募集

春の足音が聞こえ始めました。春探しとともに、史跡探訪は、必ずハガキに2人分の必要事項を記入してください。

申込方法 往復はがきに「市民史跡めぐり参加希望」と書き、

①住所②氏名③年齢④電話番号⑤希望人数（1枚で2人まで）⑥希望する乗車場所（八郷総合支所またはイベント広場）を明記の上、文化振興課までお送りください。

申し込み・問い合わせ 文化振興課

TEL 43-1111（内線1323）
 〒315-0195

石岡市柿岡5680番地1